

1 戦災殉難者慰霊碑



基本情報

所 在：佐久間公園
 住 所：東京都千代田区神田佐久間町3-21
 (JR浅草橋駅 徒歩5分)
 建 立 者：秋葉原東部連合町会
 建 立 年：昭和32年3月9日
 連 絡 先：佐久間町三丁目町会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

戦災殉難者慰霊碑

鳩山一郎書

【裏】

大東亜戦争ようやく終局に近く 大編隊による空襲は夜を日についで苛烈をきわめ 遂に浅春風未だ寒き昭和二十年三月九日夜半 大東京一圓 空前絶後の大空襲を蒙り この地秋葉原東部地区も亦免るの能はず 沛雨にも似る焼夷弾と 焔風に乗る紅蓮の火焰は 阿修羅を現じ 阿鼻叫喚 酸鼻の巻と化す 時に当地區警防團を主体とし 老若男女擧げて防火警防につとめ 死力を尽して この地の防災に當ると雖も 精竭き根はて 劫火に其身を焼き其の命をおわる これを想起するに悲痛窮りて言をなさず 嗚呼 この悲壯にして崇高なる精神は何に由来するものぞ そは嘗つての日即ち大正十二年九月一日の関東大震災の際町民一体となして この地を災火より防守したる 社會連帯の郁々たる精神に根源する 茲に難に殉げる四百余の靈を慰め 永久に其犠牲の精神を傳へ 世の指標となすため 十三回忌を期し 神田川畔に建立の供養塔を此地に移し 秋葉原東部連合町會傳統の志を舒べて記念とする

昭和三十二年三月九日 秋葉原東部連合町會建之

佐久間町三丁目町會
 和泉町町會
 佐久間町二丁目平河町會
 佐久間町四丁目町會
 佐久間町一丁目町會
 松永町町會
 元久右衛門町一丁目町會
 元久右衛門町二丁目町會
 八名川町町會
 練堀町町會
 神田川米穀市場組合

2 坂下平和地藏尊



基本情報

所 在：千駄木3丁目交差点付近
 住 所：東京都文京区千駄木3-43-1付近
 （東京メトロ 千駄木駅 徒歩2分）
 建 立 者：有志一同
 建 立 年：昭和34年
 連 絡 先：個人であり記載せず

碑 文

なし

由 来

「坂下平和地藏尊」

由来の記

一九四五年（昭和二〇年）三月四日朝、アメリカ空軍 B29 によって、この地域の千駄木・谷中に多数の爆弾が投下され、大きな被害を受けました。死者五〇〇人以上といわれています。

この地には、銭湯「鹿島湯」があり、石炭貯蔵庫を防空壕に使用していました。同銭湯に爆弾が投下し、防空壕に入っていた赤ちゃんを含む二三人の方が犠牲になりました。

一九五九年（昭和三四年）、この方々の冥福と戦争を二度と起こさぬことを誓い、近所の人々によって、この地藏尊が建立され、「坂下平和地藏尊」と命名されました。

平和地藏尊を守り戦争体験を語り継ぐ懇談会

3 三四真地蔵尊



基本情報

所 在：初音児童遊園
 住 所：東京都台東区谷中3-7-1
 （東京メトロ 千駄木駅 徒歩3分）
 建 立 者：三崎町、初音町四丁目、真島町有志
 建 立 年：昭和23年
 連 絡 先：個人であり記載せず

碑 文

【堂】

昭和廿三年

三四真地蔵尊

由 来

みしま地蔵尊由来
 台東区谷中三丁目七番一号

太平洋戦争下の昭和二十年三月四日午前八時四十分頃、小雪降る中に、谷中地区はB29爆撃機の空襲を受け、死傷者約五百人、全半壊家屋約二百戸の被害を蒙った。

戦争も終り昭和二十三年、当時の三崎町、初音町四丁目、真島町の有志により三ヶ町の戦災死者七十余名の霊を永久に供養するために地蔵尊が建立された。

みしま地蔵尊とは三ヶ町の町名からそれぞれ一字をとったもので（三四真地蔵）、かなで読みやすくした。

平成四年十一月 台東区教育委員会

4 今戸延命地藏尊



今戸延命地藏尊由来

昭和二十年三月九日夜半過ぎより十日未明にかけて
東京大空襲により江東・城北地区は一夜にして
悉く灰燼に帰す
当夜の犠牲者は九万余命に達し痛恨の限りなし
当今戸周辺の殉職者も数千名を数え隅田公園及び
その他に仮埋葬をなし
且つ今戸周辺の犠牲者数百名の遺体はこの地に埋葬した
その後上野寛永寺並びに震災記念堂に合祀した結果
その跡に町会有志発願主となり犠牲者の冥福を祈り
地藏尊を建立した
以来毎年三月慰霊祭を行い今日に至る

昭和四十四年
今三町会 合掌
(所在地 台東区今戸二丁目二十六番地)

昭和二十年三月九日夜半過ぎより十日未明にかけて
東京大空襲により江東・城北地区は一夜にして
悉く灰燼に帰す
当夜の犠牲者は九万余命に達し痛恨の限りなし
当今戸周辺の殉職者も数千名を数え隅田公園及び
その他に仮埋葬をなし
且つ今戸周辺の犠牲者数百名の遺体はこの地に埋葬した
その後上野寛永寺並びに震災記念堂に合祀した結果
その跡に町会有志発願主となり犠牲者の冥福を祈り
地藏尊を建立した
以来毎年三月慰霊祭を行い今日に至る

昭和四十四年
今三町会 合掌
(所在地 台東区今戸二丁目二十六番地)

基本情報

所在：台東区立桜橋中学校より北へ2本目の路地右
住所：東京都台東区今戸2-26-7
(東京メトロ・都営地下鉄・東武鉄道 浅草駅より 都営バス「桜橋中学校前」下車 徒歩3分)
建立者：高林正太郎
建立年：不明
連絡先：個人であり記載せず

碑文

【台座】

戦災（以下、判読不明）

由来

今戸延命地藏尊由来

昭和二十年三月九日夜半過ぎより十日未明にかけて
東京大空襲により江東・城北地区は一夜にして
悉く灰燼に帰す
当夜の犠牲者は九万余命に達し痛恨の限りなし
当今戸周辺の殉職者も数千名を数え隅田公園及び
その他に仮埋葬をなし
且つ今戸周辺の犠牲者数百名の遺体はこの地に埋葬した
その後上野寛永寺並びに震災記念堂に合祀した結果
その跡に町会有志発願主となり犠牲者の冥福を祈り
地藏尊を建立した
以来毎年三月慰霊祭を行い今日に至る

昭和四十四年
今三町会 合掌
(所在地 台東区今戸二丁目二十六番地)

5 戦災慰霊碑



基本情報

所 在：本龍寺
 住 所：東京都台東区今戸1-6-18
 (東京メトロ・都営地下鉄・東武鉄道 浅草駅より 都営バス「リバーサイドスポーツセンター前」下車 徒歩1分)
 建 立 者：本龍寺
 建 立 年：不明
 連 絡 先：本龍寺 03-3875-7676

碑 文

【表】

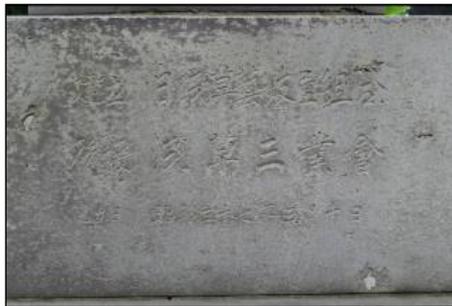
戦災殉 (以下、判読不明)

経 緯

東京大空襲時、本龍寺 本堂下に設置されていた防空壕へ
 逃げ込んだ多くの方々が亡くなった。
 その方々を供養するため墓地の一角に建立された。

本龍寺 ご住職の証言をもとに構成

6 戦災霊供養 地藏大菩薩



基本情報

所在：浅草寺 淡島堂
住所：東京都台東区浅草2-3-1
(東京メトロ・都営地下鉄・東武鉄道 浅草駅 徒歩5分)
建立者：旧浅草藝妓屋組合
建立年：昭和37年3月10日
連絡先：浅草寺 03-3842-0181

碑文

【台座・上表】

戦災霊供養

地藏大菩薩

浅草寺恭順拜書

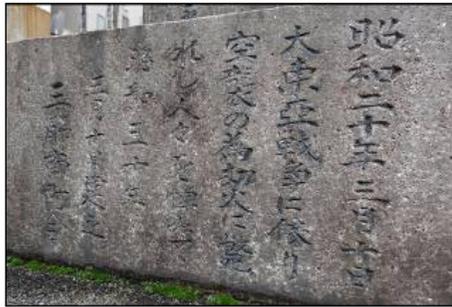
【台座・上裏】

昭和二十年三月十日

【台座・下裏】

建立 旧浅草藝妓屋組合
後援 浅草三業會
建立日 昭和三十七年三月十日

7 親子地藏尊



基本情報

所在：長応院墓地内
 住所：東京都台東区蔵前4-11
 (都営地下鉄 蔵前駅 徒歩2分)
 建立者：三筋南町会
 建立年：昭和30年3月10日
 連絡先：長応院 03-3851-6601

碑文

【台座・上左】

昭和二十年三月十日
 戦災犠牲者
 故人氏名
 (故人名)

【台座・上表】

春あさく
 去りし
 みたまよ
 安らう霊

【台座・下左】

愛知県岡崎市花崗町
 石近牧野政次郎

【台座・下表】

昭和二十年三月十日
 大東亞戦争に依り
 空襲の為契に斃
 れし人々を悼みて
 昭和三十年
 三月十日建之
 三筋南町会

8 春季・秋季慰霊大法要

春季慰霊大法要



秋季慰霊大法要



※写真提供 東京都慰霊協会

開催概要 (平成26年)

歳事名：春季・秋季慰霊大法要
 会場：東京都慰霊堂
 住所：東京都墨田区横網2-3-25 横網町公園
 (都営地下鉄 両国駅 徒歩2分、JR両国駅 徒歩10分)
 日時：【春季】平成26年3月10日(月)【秋季】9月1日(月) ※例年3月10日と9月1日開催
 参列者数：【春季】600人 【秋季】600人
 連絡先：公益財団法人 東京都慰霊協会 03-3623-1200

式次第 (平成26年)

【春季慰霊大法要】

1. 参列者入堂
2. 行事 鐘…大導師以下入堂
3. 開式の辞…東京都慰霊協会会長 檜垣正巳
4. 読経…大本山浅草寺 法田 光順 大僧正 外一山式衆、東京都仏教連合会 各地区代表
5. 追悼の辞…東京都知事、東京都議会議員、墨田区長、墨田区議会議員
6. 焼香 秋篠宮殿下、秋篠宮妃殿下、主催者、都・区代表、遺族代表、来賓代表、協賛団体代表
7. ご法話…大本山浅草寺 教化部 執事 壬生 真康 師
8. 大導師以下退堂
9. 閉式の辞…東京都慰霊協会理事長 中島 宏
10. 来賓退堂
11. 一般参拝者焼香

【秋季慰霊大法要】

1. 参列者入堂
2. 行事 鐘…大導師以下入堂
3. 開式の辞…東京都慰霊協会会長 檜垣正巳
4. 読経…東叡山寛永寺 貫首 神田 秀順 大僧正 祝下 外一山式衆、東京都仏教連合会 各地区代表
5. 追悼の辞…東京都副知事、東京都議会副議長、墨田区長、墨田区議会議員
6. 焼香 高円宮妃殿下、主催者、都・区代表、遺族代表、来賓代表、協賛団体代表
7. ご法話…東叡山寛永寺 長騰 浦井 正明 大僧正
8. 大導師以下退堂
9. 閉式の辞…東京都慰霊協会理事長 中島 宏
10. 来賓退堂
11. 一般参拝者焼香
12. 吊霊 鐘

開式の辞 (平成26年 春季慰霊大法要)

本日ここに秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、東京都知事ならびに東京都議会議員をはじめ、多くのご来賓のご参列を得て、公益財団法人東京都慰霊協会は、ご遺族の皆様とともに、都内戦災ならびに関東大震災遭難者諸霊のご冥福を祈念して、平成26年春季慰霊大法要を執り行います。

顧みれば、本年は太平洋戦争の終戦から69周年、関東大震災から91周年となります。東京は大正の関東大震災と、昭和の太平洋戦争により、壊滅的な被害をこうむりました。特に、先の戦時下、昭和20年3月10日の大空襲で、大量の焼夷弾により都心の大部分が焼失し、一晩で8万人余のかけがえない命が失われ、遺族の皆様には癒えることのない悲しみを残しました。この慰霊堂に祀られている16万3千体の遺骨と共に、昭和の戦災と大正の大震災の記憶は、世代を超えて都民の心に深く刻まれ、未永く残ることでありましょう。

今日私たちが享受する平和と繁栄は、多くの尊い犠牲とご遺族の方々のご苦労の上に築かれていることを忘れてはなりません。世界では今なお、さまざまな地域で紛争が起き、戦火等による犠牲者が絶えません。また3年前の3月11日に発生した東日本大震災では、地震後の大津波により多くの方々の方が命を落とし、自然災害の怖さを身にしみ感じさせられましたが、地震や台風などの自然災害は、地球上の各地で絶えず起こっています。私たちは、世界の平和を心から願うとともに、戦災と震災の悲惨な出来事を次の世代へ語り継ぎ、教訓として生かしてゆくことが、私たちに課せられた使命であると考えます。

ここ東京都慰霊堂に眠る多くの戦災並びに震災遭難者の諸霊に対し、ご参列の皆様とともに、心から追悼の捧げるとともに、将来このような惨事の繰り返されないことをお願いし、併せてご遺族の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ式辞といたします。

平成26年3月10日
 公益財団法人東京都慰霊協会
 会長 檜垣 正巳

9 戦災殉難者供養之碑



基本情報

所 在：第四砂町小学校付近
 住 所：東京都江東区南砂2-28-1
 （東京メトロ 東陽町駅より 都営バス「南砂二丁目」下車 徒歩1分）
 建 立 者：起縁南砂町一、三丁目
 建 立 年：昭和27年
 連 絡 先：六地藏奉賛会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

昭和貳拾年 参月拾日歿
 戦災殉難者供養之碑
 起縁南砂町一、三丁目

【靈標板】

六地藏尊再建戦災殉難碑建立奉納者御芳名
 （個人名）

10 親子地藏尊



基本情報

所 在：東陽町駅北側
 住 所：東京都江東区東陽町4-2-5
 (東京メトロ 東陽町駅 徒歩1分)
 建 立 者：各町有志
 建 立 年：昭和26年3月
 連 絡 先：親子地藏保存会 個人宅のため記載せず

碑 文

【左手前碑・表】

親子地藏尊の由来

この親子地藏尊は第二次大戦も終りに近い昭和二十年三月十日の下町地区の大空襲の初この地域に於いて殉難死された方々の霊の供養回向の為昭和二十三年三月十日の三年忌法要を記念し遺族及有志の発願によって建立したものです。

昭和五十三年三月十日 親子地藏保存会

【位牌】

戦災殉難者諸精霊位

【左奥碑・表】

戦災殉難者七周忌記念
 親子地藏尊
 昭和二十六年三月建立

【右碑・表】

大悲

【左奥碑・裏】

親子地藏尊由来

昭和二十年三月十日ノ戦災ノ為メ老幼男女コノ地一帯ニ於テ殉難セシ遺族コレヲ懇ニ悼ノ為子抱キ地藏尊像ヲ建テ以テ災除延命ノ地藏尊ニ敬ヒ安置セルモノナリ

各町有志供養講

棟梁篠崎
 石工寺基

【右碑・裏】

戦災殉難死者供養のため建立せし親子地藏堂も五十年の歳月を経損傷の度甚だしくなりしを憂い地域有志發願し堂を再建泉下の霊を慰めんと欲す 合掌

11 八百霊地藏尊



基本情報

所 在：猿江橋西側たもと
住 所：東京都江東区森下5-15
(都営地下鉄 菊川駅 徒歩7分)
建 立 者：江東区森下五丁目町民有志
建 立 年：地藏尊…昭和21年頃 由来記碑…昭和49年3月10日
連 絡 先：森下五丁目町会 個人宅のため記載せず

碑 文

【堂】

や おたま
八百霊地藏尊

由 来

八百霊地藏尊

由来記碑

昭和二十年三月十日大東亜戦争による米軍東京大空襲により一朝にして犠牲となった当時の深川高橋五丁目の町民八百余名の霊を慰めるため昭和二十一年生存者町民有志によりこの地藏尊が建立された
この由来を後世に伝へ併せて恒久の平和を祈るため三十周年を記念してこの碑を建てた

昭和四十九年三月十日

江東区森下五丁目町民有志

※平成27年3月8日に故人の名を刻んだ慰霊碑を建立予定

12 延命地藏尊



基本情報

所在：東深川橋交差点北西
 住所：東京都江東区白河2-15
 (東京メトロ・都営地下鉄 清澄白河駅 徒歩1分)
 建立者：李仁洙
 建立年：昭和35年3月
 連絡先：泰耀寺 03-3657-0422

碑文

【台座・右】

(判読不明)

経緯

延命地藏尊由来

当地蔵は、文政四年（1821年）永代の上流大川浚渫の際、出現した多くの無縁仏の人骨を元真光寺境内で安置し供養する際に建立された。

その後、泰耀寺と合併、品川大龍寺への墓地移転があったが尊像は町内有志の懇情により昭和2年、現地に祀られる。

向かって右側の地藏尊は、昭和35年3月戦災死者供養のため李仁洙さんによって建立された。

泰耀寺 ご住職の証言をもとに構成

13 殉職者之碑



基本情報

所 在：天妙国寺
 住 所：東京都品川区南品川2-8-23
 (京急電鉄 青物横丁駅 徒歩4分)
 建 立 者：株式会社東亜製作所 齋藤源作
 建 立 年：昭和18年4月18日
 連 絡 先：齋藤最上工業株式会社 042-772-5005

碑 文

【表】

殉職者之碑

陸軍中將 長谷川治良謹書

【左】

昭和十七年四月十八日殉職
 (故人名)

【裏】

昭和十八年四月十八日建之
 株式会社東亜製作所
 社長 齋藤源作

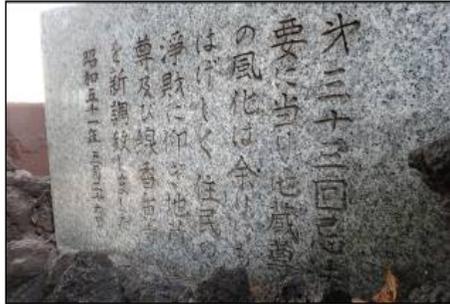
経 緯

(昭和17年4月18日の) 空襲により

東亜製作所の従業員が犠牲となる。

齋藤最上工業株式会社の証言をもとに構成

14 入新井萬霊地藏尊



基本情報

所在：入新井公園
 住所：東京都大田区大森北1-20-1
 (JR大森駅 徒歩4分、京急電鉄 大森海岸駅 徒歩6分)
 建立者：入新井萬霊地藏尊奉賛会
 建立年：昭和32年5月(昭和51年5月29日再建)
 連絡先：入新井萬霊地藏尊奉賛会 個人宅のため記載せず

碑文

【表】

入新井萬霊地藏尊
 為昭和昭和二十年一月 十一日
 大空襲戦災死者
 五月二十三日
 五月二十九日

【裏】

才三十三回忌法
 要に当り地藏尊
 の風化は余りにも
 はげしく住民の
 浄財に仰ぎ地藏
 尊及び線香台等
 を新調致しました
 昭和五十一年五月二十九日

【左】

奉賛会
 (個人名)

【右】

発起人
 (個人名)
 昭和三十二年五月
 建之

由来

入新井萬霊地藏尊の由来

この辺りは、太平洋戦争下の昭和二十年五月二十九日の東京大空襲にて、不幸にも三・三平方メートル(一坪)当り六、七発の大量油脂焼夷弾が落され、大勢の尊い犠牲者が出ました。

戦後、区画整理も整い入新井公園が設けられるに及び、昭和三十二年住民の声にて、今は亡き肉親を偲び、在りし日の隣人を追慕してご冥福を祈ると共に永遠の平和を祈念し、故広瀬定光氏他有志が発起人となり、住民の浄財をあおいで地藏尊が建立されました。

その後永年の風雪に破損がひどく、今回三十三回忌を記念して再び広く浄財を募り再建したものであります。近隣の方々のお力により、毎日お花や線香の絶える時がありません。

昭和五十一年五月二十九日
 入新井萬霊地藏尊奉賛会

15 空襲犠牲者供養の地蔵



基本情報

所 在：小川医院付近
 住 所：東京都板橋区大山金井町16-8
 (東武鉄道 大山駅 徒歩8分)
 建 立 者：小川忠雄
 建 立 年：昭和25年
 連 絡 先：個人であり掲載せず

碑 文

なし

由 来

空襲犠牲者供養の地蔵

第二次世界大戦中の昭和二十年（一九四五）四月十三日夜、板橋から志村の地域にかけてアメリカ軍による空襲がありました。この空襲は、区内最大の罹災者約四万五千人を出し、板橋駅、区役所、養育院など板橋区の中核を焼け野原にしました。

この空襲で、当地の防空壕に避難していた、一人の乳児を含む九人が、爆弾の直撃を受け犠牲になったといわれています。

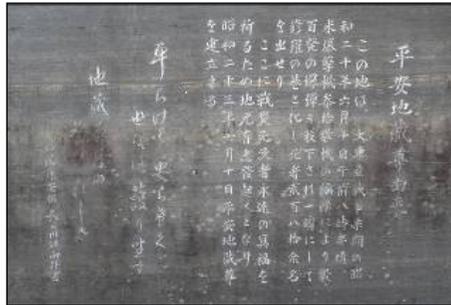
戦後、当地を購入し、公衆浴場を開業した小川忠雄氏が、先の空襲による被害を知り、供養のために建てたのが、このお地蔵さまです。昭和二十五年（一九五〇）に現在地に建てられました。八面の胴部分に一体ずつの地蔵が刻まれ、そのうちの一体が子供を抱えています。

昭和四十九年（一九七四）には、覆屋（おおいや）も作られ、現在ではまちの方々によって大切におまもりされています。

このお地蔵さまは、板橋区における空襲の事実を伝え、後世に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える史跡として、平成七年度、板橋区の記念物に登録されました。

平成九年二月 板橋区教育委員会

16 平安地蔵尊



基本情報

所 在：マンション シティライブ常盤台と三田南常盤台コーポの間
 住 所：東京都板橋区南常盤台2-11
 （東武鉄道 ときわ台駅 徒歩4分）
 建 立 者：地元有志
 建 立 年：昭和23年6月10日
 連 絡 先：個人であり掲載せず

碑 文

【地蔵・台座 裏】

奉賛會

(個人名)

昭和二十三年六月十日建之

由 来

【石碑・表】

平安地蔵尊由来

この地は、大東亜戦争末期の昭和二十年六月十日午前八時半頃、米爆撃機参拾数機の編隊により數百発の爆弾を投下され一瞬にして修羅の巷と化し死者貳百八拾余名を出せり

ここに戦災死没者永遠の冥福を祈るため地元有志發起人となり昭和二十三年六月十日平安地蔵尊を建立する

平らけく 安ら希く
 世越は 護り座す
 地藏菩薩の
 誓ひうれしき

伊藤康安撰 長谷川耕南拜書

【石碑・裏】

戦災死没者

(故人名)

【説明板】

平安地蔵

昭和二十年（一九四五）六月十日、午前七時五十分より約二時間にわたり、この付近一帯はB29による空襲をうけました。『帝都防空本部情報』の記録によると、死者二六九名、重傷者八六名、建物の全壊二六〇戸、投下爆弾（二五〇キログラム級）一一六個、罹災者二、四六七人罹災世帯四九八世帯とあります。区内では最大の死者を出した空襲といわれ、実際にはこの数字より多い被害があったようです。

戦後、亡くなった人々の供養と再びこの悲劇を繰り返すまいという誓いのもとに昭和二十三年六月十日、地元有志の人々が浄財を集め、おとな、子どもを表す大小の地藏を造立、平安地蔵と命名しました。太平洋戦争を語る区内では数少ない史跡の一つです。

平成七年度、板橋区の記念物に登録されました。

平成九年三月 板橋区教育委員会

17 石出巳之助之墓



基本情報

所 在：法林寺
 住 所：東京都葛飾区西水元6-14-18
 （JR亀有駅より 東部バスセントラル「法林寺裏」下車 徒歩1分）
 建 立 者：石出文五郎
 建 立 年：昭和17年8月
 連 絡 先：法林寺 03-3608-1905

碑 文

【表】

石出巳之助之墓

【左】

悲運銃撃善士 昭和十七年四月十八日

【右】

昭和十七年四月十八日米國敵機ノ機銃彈ヲ受ケテ死亡ス
 性温和至純至孝身體強健ニシテ將來ヲ囑望セラレシニ此
 ノ災禍ニ遭ヒテ殉難ス 享年十四歳

【裏】

昭和十七年八月
 施主 石出文五郎建之

18 平和観音



基本情報

所 在：泉福寺
 住 所：東京都江戸川区東小松川2-7-17
 （都営地下鉄 船堀駅より 都営バス「東小松原二丁目」下車 徒歩7分）
 建 立 者：泉福寺
 建 立 年：昭和56年6月16日
 連 絡 先：泉福寺 03-3652-9428

碑 文

【台座・表】

平和観音建立のことは

この観音様は、昭和二十年から教えて三十七回忌を機に、戦没戦災者萬霊の慰霊供養と世界の恒久平和を祈念して、当山遺族関係者と多くの有縁の方々の協力により建立されました。この観音様の開きかけの蓮華（荅蓮華）を右手で今まさに開かんとするお姿は、犠牲者萬霊を成仏させようとの意味であり、また私たちの菩提心を今まさに開かせて心の平和も象徴するものです。

再び戦争による犠牲者がごまませんように、皆さまがこの聖観音様と同じ働きをなされますようお祈りするものです。

南無大悲観世音菩薩

昭和五十六年六月十六日 山主合掌

【台座・左】

泉福寺関係戦没戦災犠牲者

（故人名）

【台座・右】

（故人名）

19 殉国慰霊碑



基本情報

所 在：阿豆佐味天神社
 住 所：東京都立川市砂川町4-1-1
 （JR立川駅より 立川バス「砂川四番」下車 徒歩2分）
 建 立 者：砂川町
 建 立 年：昭和34年3月31日
 連 絡 先：阿豆佐味天神社 042-536-3215

碑 文

【表】

殉国慰霊碑

【裏】

第一次世界大戦から第二次世界大戦にわたり、多くの町民が、私たちに別れを告げ、戦場へ赴きましたが、不幸にも、そのうちの少なからぬ方々は、二度と私たちの間へ帰って来ませんでした。ここに私たちは、この方々の名を刻んで、これを久しく後代に伝え、併せて、その霊を慰めようとするものであります。

もとより、この方々が願ったのは祖国の勝利でありました。しかし、同時に、誰ひとり戦争を好んでいたわけではありません。ただ勝利の彼方に、世界の平和と祖国の繁栄とを望みみていたのであります。

それゆえに、世界の平和と祖国の繁栄とは、さいわいに生き残った私たちにとって、帰らぬ方々から託されたところの遺業であると申さねばなりません。今後、私たちは、誠実な協力を通じて遺業を完成し、これによって犠牲者の霊を慰めて行くことを誓うものであります。

戦没者芳名
 (故人名)

説 明 板

じゅんこくいれいひ
 殉国慰霊碑

昭和三四年（一九五九）建立
 巾 七尺五寸（2m30cm）
 厚 一尺三寸（40cm）
 高さ 二五尺（7m65cm）

仙台石の一枚岩で作られた市内最大の石造物です。

第一次世界大戦から第二次世界大戦の、砂川における戦没者・戦災死者の霊を慰めるため建立されたものです。二八八柱の方々が祀られています。

当時、あまりの大きさに、石を運ぶトレーラーやクレーンを、米軍横田基地から借りた、という逸話が残っています。

20 世代をこえて平和を考える日～戦没者追悼式並びに平和祈念式典～



※写真提供 三鷹市

開催概要 (平成26年度)

歳事名：世代をこえて平和を考える日～戦没者追悼式並びに平和祈念式典～

会場：三鷹市公会堂 光のホール

住所：東京都三鷹市野崎1-1-1

(JR三鷹駅より 小田急バス「三鷹市役所前」下車すぐ)

日時：平成26年8月15日(金) ※例年8月15日開催

参加者数：380人

連絡先：三鷹市健康福祉部 地域福祉課 地域福祉係 0422-45-1151 (代表)

式次第 (平成26年度)

- | | |
|---------|-----------------------|
| 式典一部 | 式典二部 |
| 1. 代表献花 | 1. コーラス (市内小学校合唱団) |
| | 2. 追悼と平和祈念のこぼ |
| | 3. 来賓代表紹介 |
| | 4. いま語り伝えたいこと |
| | 5. コーラス (三鷹市合唱連盟加盟団体) |
| | 6. 黙とう (正午) |
| | 7. 閉式 |

追悼と平和祈念のこぼ (平成26年度)

本日、先の大戦後69回目となる8月15日を迎え、戦没者のご遺族、原爆被害者、子どもたちを含む多くの市民の皆様のご参加をいただき、「三鷹市戦没者追悼式並びに平和祈念式典」を開催するに当たり、先の大戦で亡くなられた多くの尊い御霊に対し、市民を代表して、心から哀悼の誠を捧げるとともに、世界の恒久平和をお祈りいたします。

昭和20年(1945年)3月10日には下町を中心とした「東京大空襲」があり、前後して当時の三鷹町では軍需工場があったことから空襲があり、まさに三鷹も戦場の一つだったのでした。

8月6日の午前8時15分には、広島に実戦で初めての原子爆弾が投下され、8月9日午前11時2分には長崎にも投下され、今なお原爆の被害によって苦しんでいる多くの人々がいらっしゃいます。三鷹市では、防災無線で呼びかけをして、広島及び長崎での式典で黙とうが捧げられるそれぞれの日のそれぞれの時刻に、市民の皆様とご一緒に黙とうを捧げています。

昭和20年(1945年)8月15日、多くの人々の尊い命の犠牲があった後に、日本は終戦の日を迎えました。そして、平成26年(2014年)の今日までの69年という歳月の経過は、三鷹市民の大多数を終戦以降に生まれた、いわゆる「戦争を知らない子どもたち」として生まれました。

そこで、三鷹市ではこの日を「世代をこえて平和を考える日」と位置付けています。それは、市長である私を含めてほとんどの市民が戦争を経験していない現在において、かつての戦争の事実をしっかりと伝え、世代をこえて平和を考えることが必要であると認識しているからです。戦後69年を戦争のない中で迎えている日本であっても、過去においては確かに悲惨な戦争の当事者であったということと謙虚に振り返り、幾多の尊い命の犠牲があった現在の平和があるということ。次の世代に語り継ぐ責務があるのです。

そのために、三鷹市では『いま語り伝えたいこと—三鷹戦時下の体験—』という体験談をまとめた本を昭和61年(1986年)に刊行し、戦後60年を迎えた平成17年(2005年)に復刻版を刊行しています。さらに同年、三鷹市は『そして60年 三鷹のまちは戦場だった』という映像作品を制作し市民の皆様に貸し出してご覧いただきました。現在はそれを三鷹市のホームページからご覧いただけるようにしています。

平成25年度(2013年度)からは、戦争を体験された皆様のお話を改めてお聞きして記録する「戦争体験談のアーカイブ化」事業を進めています。三鷹市遺族会や三鷹市原爆被害者の会の皆様をはじめ、戦争を体験された皆様から戦中や戦後の暮らしについてのお話を聴かせていただき、すでにその一部をホームページで公開しています。

戦争を体験されたかたで、これまで小学校や中学校に直接向かって体験談を伝えていただいていたかたもいらっしゃいますが、今では高齢のために外出ができないかたもいらっしゃいます。たとえば、三鷹市原爆被害者の会の元代表である出島勉子さんもそのおひとりであり、かねてはこの場で体験談を語っていただいたこともありました。今は80代後半で、外出を控えていらっしゃることもあり、昨年はアーカイブ化の取組みにご協力いただきました。

このように、戦後69年を過ぎた今では戦争を体験された皆様も多くは高齢で、ご病気をされたりお亡くなりになったりされていらっしゃいます。そこで、戦争を体験されたかたの「記憶」を「記録」するための時間は、私たちに決して多くは残されていないかもしれません。戦時下の「記憶」を可能な限り「記録」して、市内外に発信することを通して、今を生きる私たちにあって、平和が如何にかげえられないものであるかを再確認し、ご一緒に地域から平和への願いを届けていきたいと思います。

三鷹市は、昭和57年(1982年)には「核兵器を持たず・つくらず・持ち込まず」の非核三原則が、平和を希求する全ての国の原則となる事を願って、「非核都市宣言」を行っています。三鷹市は、日本が人類史上唯一の戦争被爆国として核兵器の惨禍を経験した立場を踏まえて、「核兵器のない世界」の実現を求めています。

また、平成4年(1992年)には、単に戦争や紛争がない状態を「平和」ととらえるのではなく、地球環境が保護され、「貧困」「飢餓」「難民」などが存在することなく、地球上に住む全ての人々が、ともに幸せに生きることができるといえる社会の実現が「平和」につながるという「積極的平和」の考え方に立って、「三鷹市における平和施策の推進に関する条例」を制定しています。

現行の『三鷹市基本構想』では、「平和の希求」、「基本的人権の保障」、「地方自治の実現」を目標としていますが、まさに、「平和」のないところに「基本的人権の保障」はなく、「基本的人権の保障」がないところに、真の「地方自治」の実現は成立しないのです。

「平和」という言葉は、それを唱えるだけでは実現されるものではないと思います。私たちは、「三鷹市基本構想」や『三鷹市自治基本条例』に基づき、まずは、地域社会において、お互いの基本的人権と多様な価値観を尊重しつつ、法治国家における民主主義の手続きを遂行していくことが大切であると思います。

そして、地域から平和を実現していくためには、多様な市民及び団体による「協働」の実践を積み重ねていくことが重要です。たとえば、三鷹市が世界連邦運動協会三鷹支部の皆様と協働で「平和」に関する児童の絵画を募集して、平成元年(1989年)から制作してきた「平和カレンダー」の取組みがあります。毎年秋には、公益財団法人三鷹国際交流協会と三鷹青年会議所をはじめとする実行委員会が「国際交流フェスティバル」を開催されてきており、今年は25回目を迎えています。子どもたちや若い世代が多く参加するこうした草の根の平和事業は極めて重要です。

本日の式典においては、三鷹中央学園三鷹市立第三小学校合唱団と鷹南学園三鷹市立中原小学校合唱団、大成高校合唱団がコーラスで参加してくれています。児童・生徒の皆様のご歌声に込められている「平和」への願いが、たしかに未来へつながることを信じます。

さて、今年も申し上げます。私は三鷹市長として、人間の引き起こした悲しい歴史的事実から目をそむけることなく、次の世代にしっかりと語り継ぐとともに、現在も、そしてこれからも、真の平和の実現に向けて、皆様と一緒に努力していきたいです。

結び、もう一度、先の大戦で亡くなられた尊い御霊のご冥福を心よりお祈りし、ご遺族の皆様のお心のご平安を心より願いますとともに、全ての人が、平和の下に、平等に、心豊かに安心して暮らせるように「平和への祈り」を捧げ、「追悼と平和祈念のこぼ」といたします。

平成26年(2014年)8月15日
皆様とともに 三鷹市長 清原 慶子

21 町田市戦没者追悼式



開催概要（平成26年度）

歳事名：町田市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：町田市民ホール
 住所：東京都町田市森野2-2-36
 （JR・小田急電鉄 町田駅 徒歩7分）
 日時：平成26年10月16日（木） ※例年10月開催
 参列者数：190人
 連絡先：町田市 地域福祉部 福祉総務課 042-722-3111（代表）

式次第（平成26年度）

1. 開 式
2. 戦没者芳名録奉納… 地域福祉部長
3. 国歌 斉唱
4. 黙 と う
5. 式 辞… 町田市長
6. 追悼のことば… 町田市議会議長、町田市戦没者遺族会会長、戦没者遺族代表
東京都遺族連合会会長、東京都知事
7. 献 花
8. 閉 式

式 辞（平成26年度）

本日ここに、多くの戦没者御遺族並びに御来賓の皆様のご参列のもと、町田市戦没者追悼式を執り行うにあたり、町田市を代表し、式辞を申し上げます。

先の大戦において、多くの人々が、国内はもちろん遠い異国の地で、愛する家族を思いながら、その尊い命を捧げられましたことは、私たちにとって永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

今日の私たちの生活の礎となっている平和と繁栄は、尊い犠牲の上に築かれていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

あらためて、戦争により亡くなられた全ての方々と、今日にあっても決して癒されることのない御遺族の皆様への深い悲しみに対し、心から哀悼の意を表します。

歳月が流れ、本年、終戦から69年目を迎えました。戦後の日本は、世界に類を見ないほどの国勢の復興・発展を経験したものの、現在では、経済問題、希薄化する人間関係、相次ぐ凶悪犯罪の発生、地球規模の環境問題などが深刻化しております。

また、国際的には、地域・民族の紛争が絶えることがありません。平和への想いは、いつの時代においても、なにもにも代えがたい普遍の願いです。戦没者の方々が、かけがえのない命をもって示された戦争の悲惨さと平和の尊さを、深く心に刻み、未来を担う次の世代にしっかりと継承し、戦争の歴史を繰り返さないことを、御霊の前にお誓いいたします。

結びにあたり、戦争の犠牲となられた方々のご冥福と、本日ご列席の皆さまの今後ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成26年10月16日
 町田市長 石坂 丈一

22 町田市戦没者合同慰霊塔



基本情報

所 在： かぶと塚公園付近
 住 所： 東京都町田市忠生3-22-8
 (JR・小田急電鉄 町田駅 町田バスセンターより 神奈川中央交通「根岸」下車 徒歩3分)
 建 立 者： 町田市
 建 立 年： 昭和46年9月
 連 絡 先： 町田市 地域福祉部 福祉総務課 042-722-3111 (代表)
 ※一般戦災死没者を含む

碑 文

【表】

慰霊塔

由 来

明治以降各戦役の戦没者および太平洋戦争における戦没者並びに戦争犠牲者の精霊を敬慕する市民の総意によってここに合同慰霊塔が建立されました

わたくしたちはこの聖塔をあおいで心からみたまのご冥福と永遠の世界平和を祈念するものであります

昭和四十六年九月吉日

町田市長 大下勝正

23 戦災者慰霊塔 平和観音



基本情報

所 在：総持寺
住 所：東京都西東京市田無3-8-12
(西武鉄道 田無駅 徒歩5分)
建 立 者：戦災者慰霊塔建設会
建 立 年：昭和32年4月12日(平成4年移転)
連 絡 先：総持寺 042-461-0044

碑 文

【表】

戦災者慰霊塔

昭和二十年四月十二日祈念

【裏】

昭和三十二年四月十二日建立

戦災者慰霊塔建設会

由 来

【表】

平和観音

太平洋戦争末期の一九四五年四月十二日、米軍機B29の爆撃により田無駅前において五十数名の罪なき人々が一瞬にして爆死し、その他多数の人々が被災者となった。更にこの年の八月十五日の終戦までに田無全域において百数十の尊い命が爆撃の犠牲となった。

一九五七年四月十二日、被災地居住の歯科医海老沢太一氏が中心となり被災者遺族及び篤志家により金物店主下田武主氏がその所有地を無償提供され駅前の爆心地に観音像の戦災者慰霊塔が建立された。爾来、霊を同所で慰めてきたが、アスタビル建設のため、一九九二年移転せざるを得なくなり、総持寺のご好意によりこの地を安住の地と定める事となり移住した。

田無駅前被災の中心地には「田無平和の日」条例制定記念として記念碑を設け、この慰霊塔はこの地で平和のシンボルとして子孫が平和を享受出来るよう祈願する。
一九九九年四月十二日

【裏】

戦災者慰霊塔建設会

(個人名)

継承者
田無平和の会